

## 第4回尖石縄文文化賞

受賞者：山本暉久

尖石縄文文化賞条例にもとづく、同賞の選考委員会は、矢崎和広茅野市長の諮問を受け、委員4名の出席の下に、9月9日、尖石縄文考古館で行われた。

今回、選考・審査の対象となったのは、自・他薦を含めて、個人7件であった。候補者の内訳は、年齢的には40歳代から70歳代におよび、研究者としての所属機関等、および職業など幅広い層からなり、また寄せられた「受賞の対象となる研究及び活動の業績」についても、宮坂英弌が尖石遺跡等の発掘や研究をつうじてめざした、縄文時代の歴史の本質に迫る、すぐれた研究と活動を示すものが大部分であった。このことは、本年第4回目を迎えた本賞の制定の趣旨が、広く学界等一般に周知された結果として、誠に喜ばしいことである。

こうしたすぐれた多くの候補者を得て、選考委員会は慎重な審議を重ねた結果、第4回尖石縄文文化賞の受賞者として、山本暉久氏（神奈川県）を、全会一致で推薦することに決定した。

同氏は大学院修了後、神奈川県教育庁文化財保護課の職員として勤務しながら、縄文時代中期末葉に関東・中部地方に出現した敷石住居の研究に取り組み、その性格や変遷の研究を通じて縄文時代社会の解明につとめ、多くの優れた論文を発表している。それらの成果を集大成し、『敷石住居址の研究』を2002年に発刊している。

また、配石遺構や墓制のあり方、環状集落をめぐる諸問題、集落の変遷の研究に取り組むほか、石棒や住居内埋甕、石柱・石壇なども研究する縄文時代研究の第一人者である。現在、昭和女子大学で教育と研究に従事しながら、後進の指導に当たっている。

宮坂英弌の学問的精神にも深くつうじ、茅野市が本賞を制定した意義にそつた、まことにふさわしい受賞者である。

宮坂英弌記念尖石縄文文化賞選考委員会

委員長 戸沢充則



第4回受賞者 山本暉久 氏